

コロナ禍の統合実習プロジェクトチーム結成とシステム整備・ 運営の実際についての一考察

齋藤 みどり¹⁾, 末永 弥生¹⁾, 根本 友子¹⁾, 安藤 紗矢香¹⁾,
大野 友子¹⁾, 齋藤 敦子¹⁾, 山口 真理¹⁾
了徳寺大学・健康科学部看護学科¹⁾

要旨

2020（令和2）年，看護基礎教育において必須科目である統合実習は，特に学習の集大成であり重要な臨地実習である。しかし，新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって，当大学も臨地実習ができない状況となった。そのため，緊急に統合実習プロジェクトチームが結成され，遠隔システムの整備や統合実習内容・方法等の検討が急務となった。

本研究は，コロナ禍の統合実習プロジェクトチーム結成からシステム整備，運営の実際について，1．実習目的と目標の試案，2．統合実習使用教材選択と遠隔ソフトウェア，3．統合プロジェクトチームの結成と統合実習計画，4．遠隔による統合実習の実際について，一連の活動を振り返り考察した成果である。その結果，遠隔授業に向けてITの整備と各員のICT活用指導力が重要であることが示唆された。

キーワード：コロナ禍，統合実習，システム整備・運営

Establishing the integrated online nursing education project team and technological system in the COVID-19

Midori Saito¹⁾, Yayoi Suenaga¹⁾, Tomoko Nemoto¹⁾, Sayaka Anndo¹⁾, Tomoko Oono¹⁾,
Atsuko Saito¹⁾, Mari Yamaguchi¹⁾

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Abstract

The purpose of this study was to identify what could be needed and reinforced for the online nursing education. Due to the COVID-19, the integrated training for the basic nursing education and clinical training was required to hold through the online in 2020. Therefore, the integrated training project team was organized to develop the system for the nursing education. In addition, the contents and methods were examined. The project team was focused upon the following four factors to establish the viable and complete online education system. The practical purpose and goal had to be decided. It was essential to have the teaching materials and software which would support the online learning. It was necessary to organize the project team and online teaching training plan. Finally, the operation of the online education system had to be tested and practiced. In summary, the project team identified these critical factors by reviewing the series of the preparation phases. Consequently, the study suggested that it was important to develop the IT, ICT and leadership of the faculties for actualizing the quality distance learning program.

Keywords: Covid-19 pandemic , integrated training, remote training, system maintenance and operation

I. 緒言

看護基礎教育において、2009（平成21）年のカリキュラム改正以来、統合実習が必修科目となった。この統合実習は、2007（平成19）年の厚生労働省が発出した『看護基礎教育の充実に関する検討会報告書』で、「学生は臨地実習の範囲や機会が限定される方向にあり、卒業時に1人でできるという看護技術が少なく、就職後、自信が持てないまま不安の中で業務を行っている。新卒者の中には、リアリティショックを受ける者や、高度な医療を提供する現場についていけないため早期離職する者もいる。」「また、近年の同世代の若者同様、看護学生の基本的な生活能力や常識、学力が変化してきていると同時に、コミュニケーション能力が不足している傾向がある。そのため、看護基礎教育では専門分野の学習を深める他、職業に必要な倫理観や責任感、豊かな人間性や人権を尊重する意識を育成していく必要がある。」¹⁾と報告された。これらの現状と課題を克服するために、各看護基礎教育の施設においては統合実習を組むこととなった。当校看護学科においても、これまで上記の看護基礎教育の現状と課題を克服すべく目的と目標を掲げ、統合実習の2週間を計画し実践指導を行ってきた。

しかしながら、2020（令和2）年度の統合実習は、中国武漢を感染源とする新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって、日本においても看護基礎教育に必須の統合科目を実施する実習施設の確保が困難となった。このような現状の中、厚生労働省及び文部科学省が2月と6月に発出した連絡文書^{2) 3)}には、各大学において学生の教育の質を担保し実習施設の確保が困難な場合、大学組織において創意工夫を凝らし、学生が不利益を被らないように、実習計画の立案を要請する趣旨が記載されている。省庁発出の文書を受け、当校看護学科に置いて「統合実習プロジェクトチーム」を結成し、統合実習の運営及び実習計画の立案を行った。同時に、プロジェクトチームのみならず、実習を組織化するシステムを構築し、実習運営にあたる教員を確保し2週間の実習を行った。ここに、そのシステム整備及び運営の実際を報告する事は、いつ何時感染症に見舞われ同じような状況下で、看護基礎教育を遂行せねばならないことが生じるかもしれないことを鑑み、統合実習計画の組み立てを共有すべく、報告することとした。

II. プロジェクトチームの結成から実習開始の活動

1. 実習目的と目標の試案

2020（令和2）年度、当初から学生の学内登校は見合わせねばならないコロナ禍の学校運営状況下、統合実習を臨床で行うことは、施設患者と学生双方の感染対策を考えると厳しい状況であった。そのような状況において、文部科学省及び厚生労働省^{2) 3)}は、学生への教育の質を担保し実習内容を各大学に組み替えるように2月と6月に文書を発出した。看護基礎教育を担う看護学科においても、講義や実施方法を工夫する旨が明示されていた。よって、コロナ禍以前の統合実習の目的と目標を到達すべき実習の組み立てを考えることを、文部科学省と厚生労働省が連名で発出した文書において要求されていた。

2020（令和2）年度、統合実習の目的と目標は表1に明示している。それにおいて、このコロナ禍の実習目標を変えざるを得なかったのが、目標4に掲げた「複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して計画立案できる」である。臨地実習であれば、少なくとも2名の患者を受け持ち、実践レベルを到達目標に設定できるが、遠隔運営の統合実習計画においては、実在の患者を目の前にし、実践レベルを到達目標に設定することが困難であった。しかしながら、この目標以外の到達度を成し遂げる実習計画を練り授業教材を探し、指導案の作成、実習計画を立案した。そこに至るまで、ゴールデンウィークからプロジェクトチーム第1回会議までの約半月を要した。

表1 統合実習の目的と目標

I	実習目的	既習実習のまとめとなる各自の課題を見出し、保健医療福祉チームの一員としての倫理観や看護観を深めるとともに、総合的な看護実践能力を培う。
II	実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習実習を通して、興味関心のある看護実践や自己の成長につながる課題を見出すことができる。 2. 看護管理の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能について理解を深める。 3. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解し、チームの協働に向けた行動がとれる。 4. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して計画立案できる。 5. 看護実践を通して看護の専門性について考え、既習の理論や文献を活用して、看護観について深めることができる。

2. 統合実習使用教材選択と遠隔ソフトウェア

実習目標の到達レベルを維持し、統合実習の手法を検討し、施設に行き実習していた状況と同じように学生の教育を維持する教育教材の検索から開始した。視覚教材ビデオがあることは承知していたが、視聴してみるものの組織としての契約が必要であり、経済的負担がかかる。無料の利用可能な資料が、多職種の連携とチームワークの項目学習には、チームステップス⁴⁾ 授業利用の契約を申し込むことで、様々なビデオ教材が利用できるとともに、チームステップスの解説書、段階的学習資料が利用可能であった。実習目標の1～3の到達を可能とする教材選択において、看護学科の遠隔講義開始が5月11日からと決定するとともに、4月（20日）下旬に視聴覚教材ソフトウェア利用契約を締結し、学習教材として利用可能な映像教材ソフトウェアがあることを把握できた。こうした映像教材ソフトウェアの遠隔利用に際して、映像や音声が入り切れることなく、学生のネット環境において不利益が生じないように、映像公開の手法を練る必要があった。

学内遠隔授業中、Zoomで映像教材ソフトウェアをリアルタイムで公開した場合、学生のネット環境によっては、画像が静止し音声が入り切れてしまい内容が把握できないことが生じていた。よって、学生が100名以上一度に動画が視聴できる環境を整えるためには、以下のような対策を講じた。①You Tube限定公開用のビデオ作製②学生がYouTubeに簡単にアクセスできるように、URLの入力が必要ないように、QRコードを作成③統合実習のビデオ視聴案内と同時に②を公開した（実習説明時間に公開した）。

1) 遠隔授業検討委員会（以下「遠隔委員会」とする）による遠隔授業ソフトウェアの決定

コロナ禍の2020（令和2）年度4月より、大学内に遠隔委員会を設立し、組織内で遠隔システムの整備を開始した。遠隔委員会内で、看護学科の学生数が一学年100人を超えていることから、有料利用契約を行い、1講義時間90分の接続が可能となるとともに、統合実習が遠隔となると実習時間一日9時間換算の連続遠隔接続が可能となった。

2) ICTによる履修学生への一斉伝達と資料公開

2020（令和2）年度4月の時点では、教科履修学生と担当教員をつなぐICT導入が確立しておらず、唯一学生に情報を配信する手段は、学生支援課を経由して「オクレンジャー」と称する学年別一斉送信手段があるのみだった。よって、教科別担当教員と履修学生を紐づける無料ソフトウェアとして、遠隔委員会は、Google Classroomを利用することを決定した。同時に、各学生及び教員にGoogleアカウントのメールが付与され学生を『統合実習』のGoogle Classroomに参加するように、「オクレンジャー」を介して伝達した。こうした、遠隔ソフトウェアの学内組織と企業の契約、無料ICTソフトウェアの決定、学生に

Googleアカウントのメール付与がなされて、統合実習を遠隔運営するための人と人、人とモノ、人と情報を結ぶツールが導入されシステム化された。

3. 統合プロジェクトチームの結成と統合実習計画

1) 統合実習を遠隔運営とする決断経緯

コロナ禍の新学期を迎えた4月、実習委員会において「統合実習プロジェクトチーム」（以下：プロジェクトチームと述べる。）を結成した。プロジェクトチームの構成員が、各実習施設に現時点での実習受け入れ状況を確認したところ、2020（令和2）年度4月の時点では、全施設が実習受け入れを停止していることを把握した。全施設ともに、施設内の感染対策委員会が実習受け入れを当面の間中止し、コロナ感染者の状況把握をしたのち、7月以降に再度委員会で実習受け入れを検討する方向であることを確認した。

これまでの状況把握ののち、組織対策と方針の決断を、看護学科長から学長に現状報告をし、統合実習を学内遠隔に切り替える組織的決断に至った。これをもって、各実習施設には、プロジェクトチーム構成委員より、病院実習から遠隔に決断した旨を、メールおよび電話連絡をもって5月の連休明け直後には、全施設の看護部に報告を終えた。

表2 統合実習プロジェクト議事検討内容及び実践項目

第1回会議	①プロジェクトチームによる、遠隔統合実習素案共通理解 ②1週間は、実習目標に沿った知識学習の設計（看護管理・チームナーシング・チームステップス） ③遠隔に用いるPCソフトの検討と学生のレディネス	5/21（木）
第2回会議	①1週目実習指導案の検討 ②2週目演習内容の複数受け持ちと優先順位の内容検討 ③学生の実習施設別配置の検討 ④遠隔による学生の学習成果発表様式の検討 ⑤施設別遠隔演習にかかわる教員の配置数の検討 ⑥患者情報の開示内容を検討	5/25（月）
第3回会議	①プロジェクトチームの担当日別指導案の検討 ②2週目事例の検討 ③1週目記録用紙の検討（演習テーマ別記録用紙の作成）	6/1（月）
第4回会議	①プロジェクトチーム各自の担当日の指導案の検討（KYT） ②2週目事例の検討 ③1週目記録用紙の検討	6/8（月）
第5回会議	①1週目指導案の時間配分再検討 ②1週目学習映像の公開方向検討 ③1週目の指導案をもとに、学習記録確認（個人提出・チーム提出の別）	6/10（水）
第6回会議	①2週目の指導案の内容及び、個人ワーク、チームディスカッションの時間配分の検討 ②2週目の記録用紙の検討（個人ワーク、チームディスカッション提出の別） ③実習目的と振り返り用紙の検討	6/15（月）
第7回会議	①プロジェクトチームの曜日別分担と合同説明会準備 ②合同説明会資料準備打ち合わせ ③曜日別責任内容と役割遂行時間所在の点検	6/29（月）
第8回会議	①統合実習プロジェクトチームと統合実習施設別担当教員合同会議 ②実習要項および記録の説明 ③自修初日学内分散登校の手順 ④2週間の指導案提示と説明 ⑤Zoom会議室参加教員の共有ホスト	7/1（水）
第9回会議	①遠隔本部機器設定の確認 ②初日分散登校時の学生の座席確認 ③使用PCのwi-fi接続確認 ④PC使用にあたり電源の位置、延長コードの必要数確認	7/3（金）

2) プロジェクトチームによる実習計画経過

統合実習を遠隔に切り替える組織の決定決断を待ちつつ、同時にプロジェクトチーム内において、既存の統合実習計画要項の修正と内容の検討を行った。統合実習の素案作成が行われたと同時に、看護学科教員に統合実習要項を開示するとともに、「統合実習プロジェクトチーム議事内容及び実践項目」(表2)のように、プロジェクトチームの会議を定期的に行い実習内容を詳細に練ることを会議の目的とし役割分担も進めた。

統合実習の2週間分の計画が「統合実習週間予定表」(表3)のように決定し、各日の指導案作成が整い、第7回プロジェクトチーム会議において、プロジェクトチームの構成員が曜日別分担と当日の責任者を担うこととし、統合実習の施設別担当教員の決定と役割を説明する日程を設定した。

表3 統合実習週間予定表

目曜日	月	火	水	木	金	
時間	1限から4限	1限から4限	1限から4限	1限から4限	1限から4限	
一週目内容	学内分散登校 AM:オリエンテーション	演習目標説明 ・看護管理の理解とチームにおける看護師の役割、機能について学ぶ。 ・チームの協働に向けた行動がとれる。	演習目標説明 ・KYTの基礎知識を身につけ、分析、発表できる。	演習目標説明 ・チームステップスの知識を吸収する。 ・チームで事例を分析し、看護師の役割を思い描き表現できる。	演習目標説明 ・1週間の目標とまとめ	
	医療安全講義 病院別チーム編成	演習内容 ディスカッション 自分が不安なことを共有する。 DVD	演習内容 DVD ・現状把握 ・本質探求	演習内容 チームステップス講義 DVD ・救急の事例視聴	課題提示 ・PPT6枚にまとめる ・チーム別病院の理念 ・看護目標	
	チーム別コミュニケーション PM:オリエンテーション開始	DVD ・リーダーシップ ・メンバーシップ	・対策樹立 ・目標設定	個人記録用紙記載 ・診療所、内科の事例視聴	・病院の特徴 ・病院の機能	
		ナースングチャンネル視聴	・KYTについて個別記入用紙作成	Zoom使用チーム別カンファレンス	・地域の特性 (市町村人口・高齢化率・年齢3区分)	
		各自役割についてまとめる	Zoom使用チーム別カンファレンス	チーム別資料提出	Zoom使用チーム別カンファレンス	
		Zoom使用チーム別カンファレンス	チーム別資料提出	日々の記録提出	チーム別資料提出	
		チーム別資料提出 日々の記録提出	日々の記録提出		日々の記録提出	
	曜日	月	火	水	木	金
	時間	1限から4限	1限から4限	1限から4限	1限から4限	1限から4限
	二週目内容	演習目標説明(午前) ・1週目のまとめを発表および意見交換ができる。	演習目標説明 ・シミュレーション学習の目的を説明	演習目標説明 ・シミュレーション学習の目的を説明	演習目標説明 ・シミュレーション学習の目的を説明	最終日の目標説明
チーム別資料提出		学生個々の目標を持って参加 グループによる情報共有	学生個々の目標を持って参加 受け持ち患者の説明及びケアの方向性 本日の行動計画の優先順位理由づけ チームによる行動計画の確認 ・朝のミーティング	学生個々の目標を持って参加 チームによる行動計画の確認 ・朝のミーティング	実習のまとめ各自記載 2週目の演習感想(チーム別発表) 看護観の各自記載 様式 ワードA4サイズ	
2週目のオリエンテーション(午後)					40×40設定 1600文字	
学習方法について説明			報告(リーダー⇄チームメンバー)	ミーティング		
事例の提示			・昼のミーティング	報告(リーダー⇄チームメンバー)		
個人学習			リーダーから情報発信	・昼のミーティング		
グループによる情報共有			報告(メンバー→リーダー) 行動計画の再調整及び協力体制	報告(メンバー→リーダー) 行動計画の再調整及び協力体制	16:30までに GoogleClassroomに提出	
			報告(リーダー→看護師長) 夜勤者への申し送り	報告(リーダー→看護師長) 夜勤者への申し送り		

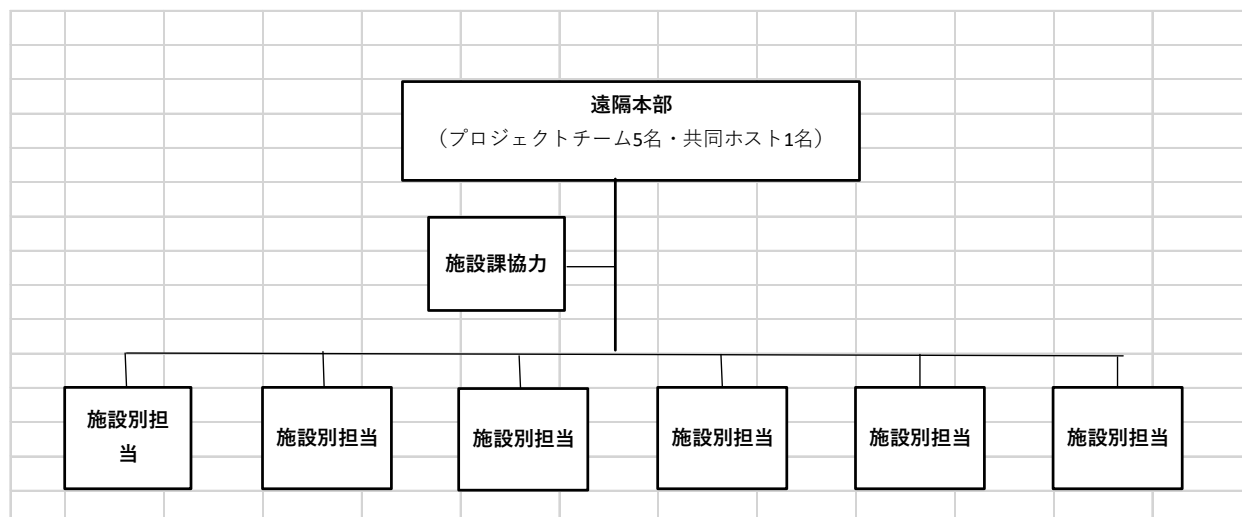
3) プロジェクトチームと施設別担当教員の協力体制の樹立

統合実習開始まで2週間を切り、実習計画の見直しと実践に向けた環境調整の最終段階に入った。まずは、4年生117名のグループ分けについての検討がなされ、グループダイナミックスの観点および施設実習に向かう学生の意識化をねらい、年度当初実習施設利用を予定してあった7施設、24病棟（1病棟5～6名）の配置とした（表4）。

表4 統合実習学生実習配置表

病院名	学生数	病院名	学生数	病院名	学生数	病院名	学生数	病院名	学生数	病院名	学生数
A病院	4名	B病院	5名	C病院	5名	D病院	5名	E病院	5名	G病院	5名
	5名		5名		5名		5名		5名		
	4名		5名		5名		5名	F病院	5名		
	5名		4名		5名		5名		5名		

表5 統合実習教員配置表



教員の配置については、1施設約20名の学生配置となったため、少なくとも各施設1～2名の協力教員要請が必須であると考えられた。しかし本学では、急遽前期全科目を遠隔での実施となったため、ほとんどの教員が通常業務に加え遠隔授業の準備に時間を費やしていた時期であった。協力教員の要請は厳しい状

況とみられたが、看護学科長の調整のもと協力教員8名が選出され、全員に快諾を得ることができた。各実習施設にプロジェクトチームより1名、施設別担当教員1名を配属し運営チームが編成された(表5)。施設担当者を置くことにより、施設担当者2名によってグループ学生の特徴に合わせた指導や個々の学生に対する指導方法の検討が可能となった。さらに総勢13名の教員が迷いや、ふれのない実習運営を行うためには、実習計画をより具体的に示し共通理解を促進する必要があった。そこで、プロジェクトチームにより実習計画の最終考査を行い、学生用の曜日別オリエンテーション計画およびスケジュール案、実践に向けた指導案の大成に急ぎ取り組むこととなった。指導案大成においては、日々の実習目標の設定、目標に沿った学習内容の具体化と教員の介入方法の明示化を意識した。時折「間に合うのだろうか」という焦りが脳裏をよぎったのも事実であるが、限られた時間の中で、諦めずにより良いものを作ろうというメンバーの熱意が、焦りや不安を払拭していったと感じている。

4) 運営チームによる合同会議

実習開始1週間前となった7月1日、プロジェクトチーム、施設別担当教員合同会議を設けた。各自、統合実習要項を熟読した上での参加であったため、主に前述した学生オリエンテーション計画および指導案の説明を行い、実習運営方法についての議論を通して運営チーム全員の合意形成を図った。会議上では、「PCを介した学生とのコミュニケーションの可能性」、「個々の学習状況の確認方法」、「記録指導の方法」、「グループディスカッション時の介入方法」、「実習評価」などが挙げられ、教員ひとり一人が遠隔上での実習についてシミュレーションした上での質問や意見であったことが伝わる議論であった。本会議で検討された内容をもとに遠隔ソフトウェアを利用した統合実習運営日の教員役割を明確にしていった(表6)。

表6 プロジェクトチーム教員曜日別主担当

1週目	月	火	水	木	金
主担当	A教員	B教員	C教員	D教員	E教員
2週目	月	火	水	木	金
主担当	A教員	B教員	C教員	D教員	E教員

5) 統合実習実施までの運営準備

統合実習開始までに計画した教材を効果的に活用するためのシステム準備が必要であった。以下の表7にシステム準備と遠隔ソフトウェア利用の統合実習教員役割の概要を示す。

表7 統合実習開始までのシステム準備と教員の役割についての概要

項目	内容
授業環境の準備	<ul style="list-style-type: none"> ●遠隔操作本部を設置（プロジェクトチームが常に在席し実習の状況把握を行う.その他教員は分散し個人の PC からアクセスする）. ●施設課職員の協力を得て遠隔操作本部 Wi-Fi 環境の確認,有線 LAN 等の整備.P C 関連機器の準備. ●web 会議システム Zoom の活用. ●学生の Wi-Fi 環境の確認,Zoom 活用のためのアプリケーションのインストール,アカウント登録の確認,指導. ●Google classroom の開設（統合実習および各実習施設別の7クラスを開設）.
学習支援の準備	<ul style="list-style-type: none"> ●Google classroom を活用し,実習に関するアナウンス全般,資料提示,課題,記録提出,記録指導を行う.学生は前もってダウンロードし実習準備をする.●Google フォームによる出欠確認. ●Zoom の挙手機能,メール,チャットによる質問や学生からの質問対応.ブレイクアウトルームにおけるヘルプ機能活用.●YouTube での限定公開動画を教材として活用. ●Zoom のホワイトボード機能,マイクロソフトパワーポイントを用い,グループディスカッションおよびグループ発表に活用. ●グループディスカッションの発表については,Google classroom 上に一定期間公開し,学生全員が他グループの成果から学べるようにする.
遠隔ソフトウェア利用統合実習 当日の教員の役割	<ul style="list-style-type: none"> ●曜日別担当教員が,ホスト（責任者）として Zoom の画面共有機能を使い,朝の出席確認から解散まで実習全体の進行,教員間の情報伝達,指示役を担う. ●ホスト（責任者）は,実習開始前に教員のブリーフィング,実習終了後にデブリーフィングを開催し,翌日の実習に向けてブラッシュアップを行う. ●共同ホストとして,1 名の教員が 2 週間すべてを担当した.主に学生のログイン管理,ブレイクアウトルームへの移動,チャット機能での質問対応,教材の配信,配信状況の確認など実習中のホストをサポートする役割を担う. ●その他の教員は,主に担当施設グループのブレイクアウトルームに参加し,学習状況を観察する.必要時助言を行う. ●グループ発表への参加,学生へのコメント実施. ●Google classroom に提出される記録物の確認,指導（日々の記録については,当日中に目を通し翌日の実習に活かす）.

4. 遠隔による統合実習の実際

1) 1週目：2020年7月7日（統合実習2日目：遠隔ソフトウェア利用初日）

(1) ブリーフィング

プロジェクトチームの教員及び施設担当教員が、8:45から当日の実習目標と進行時間と実習項目の確認及び、指導案にあるように教員の役割の確認を行った（表8-1, 8-2）。

(2) 実習運営の実際

統合実習のスケジュールを組むにあたり、Zoom会議室を作成する際にはブレイクアウトルームへの事前振り分けがZoomのボタン操作一つで可能な手法があり、Zoomブレイクアウトルームナンバーと全学生のメールアドレスを登録しておいた（実習グループ毎に、学生登録をしておいた）。しかし、残念ながらボタン操作をしても117名の学生中80名がブレイクアウトルームに振り分けられず、Zoom会議室に残ったままの学生がいると言う現象が生じた。よって、ブレイクアウトルームに学生一人一人を振り分けるのに、一人一人の学生の氏名と振り分けられる予定のブレイクアウトルームナンバー（実習グループ）を学生配置資料で確認するといった、人海戦術をとるしかなく30分弱の時間を費やした。また、学生からブレイクアウトルームへ入れないと言う問い合わせが事務局にあり、数名の教員が対応した。

さらに、学生がブレイクアウトルームへ移動後、曜日別主担当教員の役割とZoomホスト役割、双方を担いつつ24に及ぶブレイクアウトルームを移動し、出席確認及び健康状態をそのグループリーダーから報告を受ける予定であった。しかし、ブレイクアウトルームへの移動に時間がかかり途中断念した。以上の事態に、タイムスケジュールを随時変更し進行した。

曜日別主担当教員は、当日の資料の提示や司会・進行、全体教員への指示などが役割であった。しかし、遠隔操作に不慣れで資料提示がZoom共有画面に提示できるかの不安がある中、ブレイクアウトルームへ学生が振り分けられないトラブルの対応や、各施設担当教員をZoom入室時に共同ホストへ設定することや、学生と教員からのチャットによる問い合わせの対応等がかさなり、曜日別主担当教員の業務が多重業務で処理不可能であった。

本時の目標やスケジュールを事前にクラスルームへ提示していたことで、統合実習の学習内容に学生は取り掛かっていた。また、学生の通信状況からDVDをYou Tubeにアップし、簡単にアクセスできるようにQRコードを活用したことにより、視聴覚教材の通信障害は生じなかった。

(3) デブリーフィングと改善策

朝のブリーフィングで、確認した目標や指導案に記載してあった教員の介入の方法について、実際一日実施した結果を話し合う時間を設けた。誰かから問題の提示があれば、その改善策を全員で検討し、翌日に共有することとした。

- ・学生名簿を出席番号順に変更し準備した。
- ・ブレイクアウトルームへの移動に時間がかかるため、移動時間を15分確保し時間の幅を広げ、全体に余裕のあるタイムスケジュールへと調整し直した。
- ・曜日別主担当教員の業務量調整を図るために、補助教員を一人設定し、常に横に沿ってトラブルが生じた際に問題解決を図った。
- ・曜日別主担当教員をホスト役割から外し、ホスト役割を一貫して一人の教員が担当した。

- ・教員間の情報共有を当日の朝と夕だけではなく、随時情報共有するようにした。
- ・施設課職員も遠隔環境やトラブルが起きていないかと気にかけて、プロジェクトチームの本部に足を運んでくれた。

(4) 翌日の統合実習準備

これまで述べたように、初日の運営からの様々な改善の必要性をデブリーフィングで討議し、改善策を練り上げた。しかしながら、それだけで翌日の統合実習の運営が成り立つわけではなく、指導案に掲げた使用教材の種類、時間配分など運営に関して、学生のチームディスカッションに費やす時間や通信状況を考慮する必要があった。教員間においても、指導案の変更を情報共有するなど、翌日のブリーフィングに活用した。

表8-1 実習スケジュール及び指導案

7月7日（火）統合実習 実習スケジュール		
時間	内容	教員の介入
8:50～ 9:15	1. 出席確認 Google フォーム 各自チェックする。	各自、クラスルームでチェックして送信するよう伝える
	2. チームリーダーが、担当教員にメンバーの出席状況と健康状態を報告する。	本日担当教員が、各Gを回りリーダーから出席と健康状態の報告を受ける
9:15～ 9:45	1. 本日の演習オリエンテーション	事前に、学生には実習内容とタイムスケジュール等をクラスルームへ提示してある
	1) 目標の確認	
	(1) 「卒業して4月、あなたはどのように働いていると思いますか。」ディスカッションを介して、チームメンバーと将来を共有する。	本日の演習内容をZOOMを使用し、目標とタイムスケジュール、提出物について説明する
	(2) 新人看護師の組織における一員と役割についてビデオ学修を介し、さらには今回の遠隔演習を通し自らのありようを考える。	質疑応答は、直接質問やZOOMのチャットや手上げ機能を活用するように説明する
	(3) 新人看護師が病棟の一員となったとき期待されていることを、ビデオを介して知ることができる。	事前に、実習記録へ本日の目標を書いておくように説明する
	(4) 将来的の自分自身のキャリア目標を描くことができる。	
	1) チーム別学習と個人学習について	*プロジェクトチームの教員は、各Gを巡回して全体把握に努める
	2) 役割分担 リーダー及びサブリーダーの決定	*各G担当教員は、ZOOM入室後共同ホストへ変更する
3) 司会・書記の決定		
4) チーム提出物には、メンバーの学生番号と氏名必須。司会書記の明記必須。		
9:45～ 10:30	2. 下記の課題について、チーム・ディスカッションをする。	*必ず、ディスカッションの目的を書くよう説明する
	(1) 卒業して4月、あなたはどのように働いていると思いますか。思いつくことを、ありのままに書き出してみる。	*各G担当教員は、ブレイクセッション時各担当Gへ振り分ける
	①Zoomホワイトボード左上に実習病院、チーム名、メンバーの学籍番号と氏名を記載する	(1) について、ZOOMホワイトボードにチームメンバーの考えをまとめる様子を観察する
	②意見が全部出たところで、同じ意見をカテゴリーに分けてネーミングを付けてみる	時間は45分とし、時間管理を行い、本時の演習内容のテーマに沿ってそれぞれが思っている不安を書き出すように促す
	③チームでのまとめをする	個々の発言があるか、チームとしてディスカッションを有効に活用し、まとめようとする共通の意識を持っているか観察する
⑤記録用紙をGoogle Classroomへリーダーが提出する	グループダイナミックが有効でないグループへ円滑になるよう働きかける	
休憩		
10:40～ 11:05	(2) チームメンバーとのディスカッションした内容を発表する。 ①各チームが共有したことを発表する ②発表時には、チームでまとめたZoomホワイトボードを共有し、特にカテゴリーを意識して詳細を述べる ③記録用紙をGoogle Classroomへリーダーが提出する	学生でいることと、看護師となり看護を实践する立場を想像したときに抱えている不安を全体で共有する 各Gで、共有したことを5チームが発表する Zoomホワイトボードを共有画面とする
11:05～ 11:15	教員からのコメント	教員のコメントは2～3人とする カテゴリーに分けることは、不安要因を分析していることに当たり、今後の解決方法を考えることが自己の課題となる コメントは、肯定的なコメントを意識するようにする
11:15～ 12:10	3. ビデオ視聴及び個人の記録用紙に記述する。	視聴時、大切だと感じたところをメモに取りながら視聴するように説明する
	①病院組織における看護サービス (17:43)	
	①-1 組織と看護	各自、YouTubeからビデオ視聴するように説明する
	①-2 多職種連携	
①-3 看護と経済	終了後は、昼休憩に入るように説明する	
	※各自の知見を、メモを取りながらビデオを視聴する	13時から、午後は開始することとZoomへ入るように説明する
昼食		

表8-2 実習スケジュール及び指導案（つづき）

時間	内容	教員の介入
13:00～ 13:15	1. 出席確認 Google フォーム 各自チェックする。 2. チームリーダーが担当教員にチームメンバーの出席状況を報告する。	
	3. ビデオ視聴及び個人の記録用紙に記述する。	視聴時、大切だと感じたところをメモに取りながら視聴するように説明する
13:15～ 14:30	②看護サービス提供の実際 ②-1 看護サービスの提供方法 ②-2 看護師の役割と責任 ②-3 新人看護師の思い ※各自の知見を、メモを取りながらビデオを視聴する	各自、YouTubeからビデオ視聴するように説明する
	③看護専門職としてのキャリア開発・能力育成 ③-1 新人の体験 リアリティショック (5:19) ③-2 目標管理と新人へのメッセージ 先輩のまなざしを知る (5:25) ※各自の知見を、メモを取りながらビデオを視聴する	各自、YouTubeからビデオ視聴終了後は、必ずZoomへ戻るように説明する
休憩		
14:40～ 15:00	4. ビデオ視聴して感じたこと学んだことをチーム・ディカッションする。 (1) ビデオ視聴して感じたこと学んだことを共有する (2) 以下の2点について書き出して、行動目標と課題を共有する ①看護チームの一員となりチームメンバーとなった際の行動目標を書き出してみる ②来年度4月に新人看護師となるうえで、自己の課題を書き出してみる ③Zoomホワイトボード左上に実習病院、チーム名、メンバーの学籍番号と氏名を記載する	Zoomホワイトボードを利用して、2項目についてチームメンバーが相互に協力してまとめ発表できるように説明する 各G担当教員は、個々の学生が本時の到達目標に達成するように関わる
15:00～ 15:15	(2) チームメンバーとのディスカッションした内容を発表する。 ①各チームが共有したことを発表する ②発表時には、チームでまとめたZoomホワイトボードを共有し、特にカテゴリーを意識して詳細を述べる ③記録用紙の提出。Google Classroom リーダーが提出する ④教員からのコメント	ランダムに2チームを発表Gとして選定する プロジェクトチーム担当教員と各G担当教員の情報から、発表Gを2チーム選定する Zoomホワイトボードを共有画面とする 教員のコメントは2人とする コメントは、肯定的なコメントを意識するようにする
15:15～ 16:10	5. 明日の実習の確認は、クラスルームの実習スケジュールを確認する。 6. 個人ワーク：各自が本日の実習記録の記載に取り組む。 (1) 本日の記録へ取り組む。 (2) チーム・ディスカッションした記録（Zoomホワイトボードを共有画面）は、リーダーあるいは書記の責任において、Googl Classroomに提出する。 ※時間厳守 16:30 (3) 実習記録をGoogl Classroomへ提出する。 ※時間厳守 16:30	本時の目標を最終確認する 本日の課題の確認と提出物の確認をする 明日の実習スケジュールは、クラスルームで確認して必ず実習に臨むよう説明する 各G担当教員は、学生の記録を確認して翌日の指導に活かす

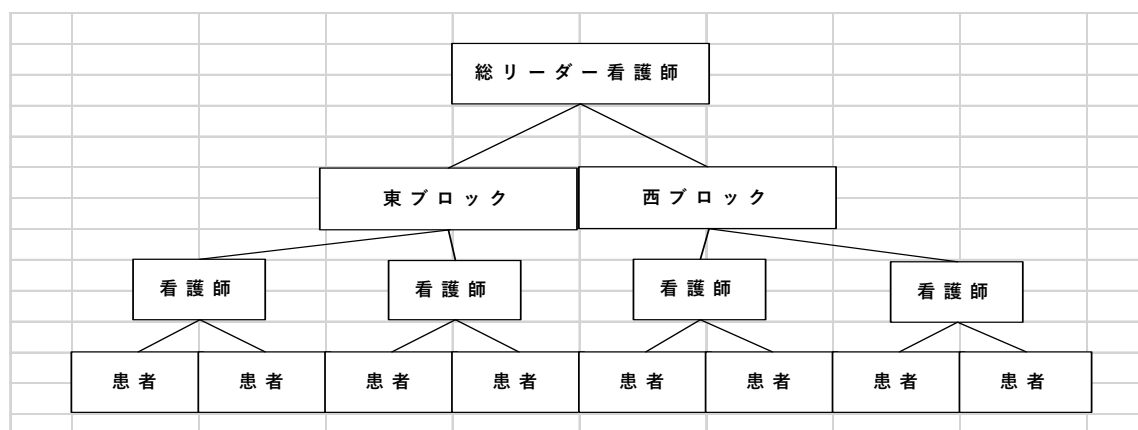
2) 2週目：2020年7月15日（統合実習8日目）

1週目の問題事項は、対応策を練ることで、連続した問題の原因は解消された。

2週目の目標設定を基に、病棟設定と患者設定を行った（表9）。

表9 統合実習 2週目計画

1. 日時 7月13日（月）～7月17日（金）9:00～16:10
2. 実習目標：
 - 1) 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して計画立案できる。
 - 2) チームの一員として協働し、受け持ち患者に必要な看護（計画）を状況（患者、場）に合わせ調整できる。
3. 実習方法
 - 1) 遠隔ソフトウェア（Zoom）利用で実施する。
 - 2) 総リーダー1名、東ブロック看護師2名、西ブロック看護師2名に分かれる。
 - 3) 東西ブロック看護師は、各自2名の患者（事例参照）を受け持ち、5人で1チームとして活動する。



4. 2週目に向けての事前学習
 - 1) 脳梗塞,肺炎,胃潰瘍,膵炎の4疾患について,①～⑥を各自のノートにまとめ復習する。
 - ①脳,肺,胃,膵臓の構造と機能,②原因,③分類,④症状,障害とそのメカニズム
 - ⑤診断や状態を知るために行われる検査とその所見,⑥治療,予後,看護

(1) ブリーフィング

プロジェクトチームの教員及び施設担当教員が、8:45から当日の実習目標と進行時間と実習項目の確認及び、指導案にあるように教員の役割の確認を行った（表10-1, 10-2）。

(2) 実習運営の実際

プロジェクトチームの教員は、全グループの目標達成進捗をブレイクアウトルーム間の巡回で確認をし、巡回後に進捗を確認した内容を話し合った。さらに、巡回時に学生からの質問事項に対応した。ブレイク

アウトルームに振り分けされず、Zoom会議室に残ったままの学生は、117名中20～30名いたが、学生名簿と協力教員により10分程度で振り分けることができた。そのため、タイムスケジュールに問題が生じることなく進行した。プロジェクトチームの教員と施設担当教員のうち、3名がホストにブレイクアウトルームに振り分けられたのち、自由にブレイクアウトルーム間を移動できずに、Zoom会議室に残ったままと言う遠隔ソフトウェアの障害に見舞われた。そのため、ホストに適宜、移動したいブレイクアウトルームを希望し、移動操作を依頼するよりほかに手段はなかった。学生から、ホストへのプライベートチャット（ホストと送信者以外には、見るができないチャット）やブレイクアウトルームからのヘルプが配信された場合など、教員がブレイクアウトルーム内にいると教員間の情報共有と交換ができず困難であった。プロジェクトチームの教員が、より病棟実習であることを想像・創造するための教材を工夫（表11）したことでリアリティのある場面を創ることができた。

（3）デブリーフィングと改善策

朝のブリーフィングで、確認した目標や指導案に記載してあった教員の介入の方法について、実際一日実施した結果を話し合う時間を設けた。7月15日は、特に病棟で一人の学生が複数の患者を受け持ち、チームでケアの優先度考えるとといった、統合実習の目標に沿って実習をするため、施設担当教員同士の打ち合わせを綿密に行った。

- ・学習の状況に合わせて、スケジュールの調整を終始行っていた。
- ・病棟実習であることを想像・創造するための学習内容や教材を工夫したことで、リアリティのある場面を創ることができた。
- ・教員間の情報共有が、ブレイクアウトルーム内では困難であった。

（4）翌日の統合実習準備

1週目の運営から、2週目はより病棟実習であることを想像・創造するための学習内容や教材の精選、学生のチームディスカッションに費やす時間や通信状況をさらに考慮する必要があった。また、施設担当教員との情報共有は学生への一貫した指導となるため、プロジェクトチームの教員は、綿密な指導案の練り直しをして、施設担当教員と情報共有するなど、翌日のブリーフィングを活用した。

表10-1 実習スケジュール及び指導案

統合実習 2週目実習スケジュール		
7月15日 (水)		
【いよいよ病院実習！】		
*今までの学びを活かし、実習病院・病棟・受け持ち患者を 想像・創造 し、看護師になりきってチームで看護を展開していきましょう。		
時間	内容	教員の介入
8:50までにZoom会議室に集合	1. 8:50までに出席確認 Google フォーム 各自チェック	
8:50~9:00	1. 本日の病院実習オリエンテーション 1) 目標の確認	朝、本部で各担当教員と本時の学習目標とスケジュール、指導内容の確認をする
9:15~9:30	(3) 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解し、チームの協働に向けた行動がとれる ⇒ チームの一員として協働し、受け持ち患者に必要な看護(計画)を状況(患者、場)に合わせ調整できる (4) 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して計画立案できる	事前に、学生には実習内容とタイムスケジュール等をクラスルームへ提示してある 学生には、事前に受け持ち患者2名の行動計画を立案しておくように説明しておく その日のリーダーは、全体の患者の情報を把握して実習に臨むように説明しておく
	1. 本日の目標 日勤帯の看護業務を、チームで協力し計画立案することができる。 2. 行動目標: 1) チームメンバーの役割と受け持ち患者の状況を考え、スケジュールを計画することができる。 2) リーダー及びメンバーが行動計画を立案し、それを基にチームで方向性と計画を検討することができる。 3) 自分自身の昼食時間を確保するために、メンバー間で患者の安全を確保するための、伝達及び協力体制を整えることができる。 4) インシデント発生時の伝達、報告事項を共有するコミュニケーションをとることができる。	Zoomへ、学生全員が入室するよう説明しておく 本日担当教員が、本時の実習内容とスケジュール、課題についてオリエンテーションを行う
	2) 病院実習 (1) 実習の進め方について ①受け持ち担当及びリーダーの選出: 学生間で決める ②担当受け持ち患者の本日の行動計画立案 (一人2事例を受け持つ) ③チームリーダーは全体の行動計画を想定し行動計画の立案 (東・西ブロックの全体把握・調整) ④チームメンバーの行動計画の確認及び調整 (リーダーを中心に) ⑤チームで時間管理を行う ⑥チームで全体の状況把握をする ⑦本日のチーム目標を設定する ⑧実習病院の理念・看護体制を意識する ・実習病院の理念・看護体制・病棟 ・病棟(日勤)の流れを知る 等 *学生が4名のチームは、東ブロックのみとなる	Zoomへ、学生全員が入室するよう説明しておく 本日担当教員が、本時の実習内容とスケジュール、課題についてオリエンテーションを行う 学生が、本日の実習の流れをイメージできるように説明する 各Gで、リーダーを決め、時間管理するように説明する 実際に実習へ行く予定であった病院・病棟を想像して、看護師になりきって実習を展開するよう説明をする プロジェクト担当教員は、各Gを巡回して学習の状況や進捗状況を確認する
	※チーム時間管理における、チーム内の上記確認④「チームメンバーの行動計画の確認及び調整(リーダーを中心に)開催時刻は、各チームのホワイトボードに記載しておく。(時刻:ミーティング(ブリーフィング/デブリーフィング))等記載。	※チーム時間管理における、チーム内の上記確認④「チームメンバーの行動計画の確認及び調整(リーダーを中心に)開催時刻は、各チームのホワイトボードに記載するように説明する *追記・修正は色を変えて修正するように説明する
	一例) 時間 ○:○ 朝のミーティング ○:○ 昼のミーティング ○:○ 報告時間	
	*1週目の学習を2週目の学習に活かす	*1週目の学習を2週目の学習に活かすよう説明する

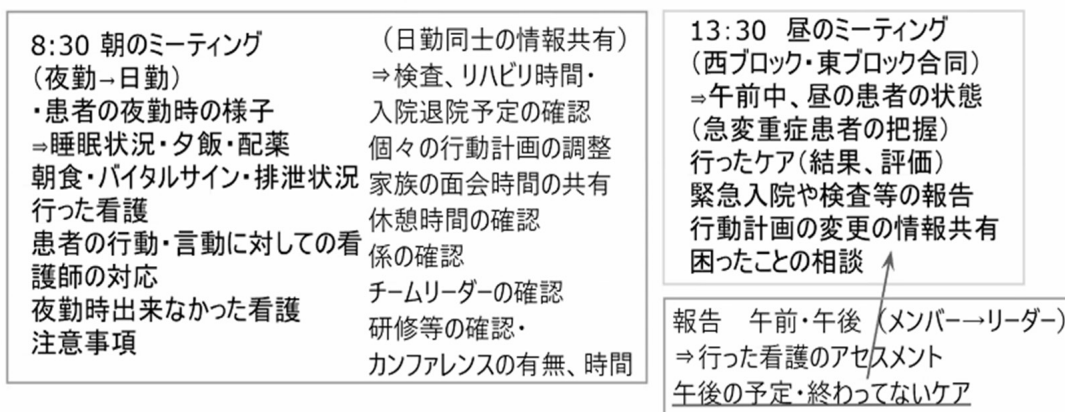
表10-2 実習スケジュール及び指導案（つづき）

時間	内容	教員の介入
9:15までに チームはブ レイクアウ トルーム 移動	2. 受け持ち担当及びリーダーの選出	
9:15～ 12:10	1) リーダー1名、東ブロック：学生2名、西ブロック：学生2名	各G担当教員は、Zoomに入室後、共同ホストへ変更してブレイクセッションへ移動する その後は、担当Gへ移動する
	2) メンバーは2事例受け持ち、リーダーは全体の状況の確認・把握・調整 *4名のチームは、東ブロックのみの編成となる	各G担当教員は、学生へ本日の実習内容とスケジュールがイメージできるように、必要があれば補足説明を加える
	*チームでリーダーや担当受け持ちを決める	各G担当教員は、個々の学生が主体的に実習の取り組み、Gとして相互支援が図れるように介入する
	3. 朝の動きの時間管理を確認する	
	4. 担当受け持ちの本日の行動計画立案⇒複数受け持ち患者の行動計記録	各G担当教員は、1週目の学習内容を基に本日の実習内容を深めるように介入する
	1) 受け持ち患者の看護の方向性を記載する	
	2) 受け持ち患者に必要なケアを、行動計画に優先順位を考え立案する	
	5. チームリーダーは、メンバー全員の受け持ち患者の行動計画を想定し、行動計画立案する	各G担当教員は、学生が役割を決定し時間管理できているか観察する
	(東・西ブロックの全体把握・調整) ⇒チームリーダーの行動計画用紙・東西1枚ずつ	各G担当教員は、朝のミーティングが運営できているか観察する
	1) チーム目標を記載する	
	2) メンバー全員の受け持ち患者の行動計画を想定し、行動計画立案する	各G担当教員は、受け持ちの情報から学生が本時の行動を想像・創造し行動計画立案しているか観察する
	※上記の実習内容が終了したら、朝のミーティング（ブリーフィング）をリーダーが開催する	
	6. リーダーが、朝のミーティング（ブリーフィング）を行う：東・西合同	
	1) チームメンバーの行動計画の確認及び調整（メンバーとともに行う）	
	2) チームの時間管理・調整をする	
	リーダーおよびメンバーの昼食は、11:30～13:30の間に、交代で1時間確保する。	各担当教員は、勤務交代時にスムーズに引き継期申し送りが出来ているか観察する
	3) 昼休憩：各チーム休憩時間の調整を行う	
	・東西1名ずつの残り番となる	各G担当教員は、スムーズに昼休憩が取れているか確認する
	・各メンバーは、残り番の学生へ申し送る	突発的なインシデント プロジェクト担当教員は、よりリアリティを出すため緊急音響を使用し、各Gに回って突発的なインシデントが起こったことを知らせる
	7. リーダーは全体の状況の確認・把握・調整する *学生が4名のチームは、東ブロックのみとなる	
	8. 突発的なインシデント	
12:10～14: 30	9. リーダーが、昼のミーティング（ブリーフィング）を行う：東・西合同	各G担当教員は、突発的なインシデント後に学生が情報共有して、行動計画の再調整ができているか観察する
	1) チーム間で情報共有及び行動計画の再調整（昼ミーティング（ブリーフィング））：東・西合同	
	10. 申し送りに向けて、リーダーがメンバーへ、またはメンバーがリーダーへ報告する	各G担当教員は、チームリーダーを中心に夜勤者への申し送り情報共有し、整理できているか観察する
14:30～ 15:00	11. 本日のチーム目標の評価（デブリーフィング） ※Zoomホワイトボードを使い、目標評価を行う。明日の目標設定、実践項目を導き出す。	各G担当教員は、実習④～⑦についてZoomホワイトボードを使い話し合いができているか観察する
15:00～ 15:30	12. 上記11、チーム目標の評価を発表し、共有する。（発表は、3チームの予定）	本日担当教員は、発表を各Gから募る一旦、ブレイクアウトセッションを終了し、Zoom全体へ学生を戻し、全体発表の準備をする発表Gは、スムーズに共有画面にして発表を行うことができるよう支援する
ブレイクア ウトルーム から 全体会議室	13. 教員コメント *随時、状況によってコメントを担当する教員を2～3名程度決める	
15:30～ 16:10	14. 明日の実習スケジュール	事前に、学生には実習内容とタイムスケジュール等をクラスルームへ提示してある 学生には、事前に受け持ち患者2名の行動計画を立案しておくように説明しておく
	15. 個人ワーク	
	1) 実習記録をGoogl Classroomへ提出する。 ※時間厳守 16:30	
	①チームリーダーは、チームリーダーの行動計画用紙・東西1枚ずつ *4名の場合は、1枚となる	本時の課題を説明する 各G担当教員へ課題を提出する 各担当教員は、課題を確認後、速やかに課題を返却し翌日の指導に活かす
	②メンバーは、複数受け持ち患者の行動計画記録	

表11 7月15日 ホワイトボード

○チーム目標

- ・チーム間で報告・連絡・相談を行って時間管理をして、患者の優先順位を
考えて行動する
- ・チームメンバーの役割と受け持ち患者の状況を考え、患者の安全を確保する
ための伝達および協力体制を整える



Ⅲ 考察

<コロナ禍の実習と組織の決断>

2020（令和2）年1月9日，中国の武漢における肺炎の集団発生に関するWHO声明⁵⁾が発表され，その後WHOのテドロス事務局長は3月11日，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がパンデミック（世界的な大流行）に至っているとの認識を示し，各国に対し一層の対策強化を求めた⁶⁾．2019年1月9日から3月11日の2か月，新型コロナウイルスの感染拡大パンデミック発表に至る期間，看護基礎教育の医療施設における実習の不透明性，不可能性をだれもが念頭に置きながらも，だれが，いつ，どこで統合実習の実習形態を医療施設の実習とするか，遠隔ソフトウェア利用とするか，あるいは遠隔ソフトウェア利用と医療施設の双方向をとり入れるのかの決断をするのが不透明なまま4月の新年度を迎えていたといえよう．統合実習初日の曜日別主担当教員，そのプロジェクトチームの一員の役割と役割遂行状況を振り返ると，多重業務を担うシステム上の問題が生じていたといえる．先にも述べたが，今年度の統合実習を遠隔ソフトウェア利用と決断する時期，そのことがプロジェクトチームの運営検討開始時期と検討期間に影響を及ぼし，短期間で手探りの状況下で，これまで各教員の築き上げた人的コミュニケーションを最大に活用し，相談や検討，意見交換がなされていたといえる．コロナ禍の統合実習運営は，先行研究が存在せず，2020年度4月に赴任し統合実習責任者の役割を背負った教員とほぼ1か月で計画立案した経緯である．

<遠隔におけるホスト役割の重要性>

曜日別主担当教員に実習の目標達成の責務とZoomホスト役割の重責は，それを担った教員に時間管理と学生からのZoomプライベートチャット（ホストしか見ることができない形式）での質問や相談，教員からのチャット情報伝達，Zoomに接続したプロジェクトチーム及び施設別担当教員の共同ホスト設定などのパソコン操作を行いつつ，指導案に基づく時間調整をしながらの課題提示や資料提示など，計り知れないものがあつた．こうした学生にブレイクアウトルームでチームディスカッションに使用するWord資料や，ビデオなどの視聴覚教材の提示を曜日別主担当教員が説明を加えつつ，その目的用途による「個人

用の資料」や「チームディスカッション資料」が用意されていたこともあり、遠隔ソフトウェア利用の統合実習であるがゆえに、随時学生が用いるWord資料をZoom共有画面に提示するなど、詳細な視覚的提示ができるように準備し、資料の提示に誤りがないように設定するなど緊張を伴うものであったといえる。これまで曜日別主担当教員の役割を述べたとおり、多重業務の軽減をシステム上改善すべく、一貫してプロジェクトチームの一員が、実習中の期間Zoomホストを担うこととした。その業務は、プロジェクトチーム及び施設別担当教員の共同ホスト設定、チャット質問対応、遠隔ソフトウェアのZoom接続不良によるZoom再接続、Zoom入室学生のブレイクアウトルームへの振り分け、ブレイクアウトルームからのヘルプ配信の対応などの複数の業務を担った。このようなホスト役割を担う要員をシステム化したことは、曜日別主担当教員の負荷軽減と円滑な運営の要であったといえる。

<統合実習における相互支援体制（補助教員の存在）>

曜日別主担当教員の統合実習中の業務量とその緊張感は、コロナ禍に入ってから5月11日より前期講義が完全遠隔で配信することとなり、教員も遠隔になれない状況下における役割と実習目標到達に導かなければならないと思う責務ゆえに、より一層の重圧を自らに背負わせ、遠隔ソフトウェアのシステム障害が生じるたびに、一層精神的に追い込まれていたといえよう。松下は⁷⁾、「相手にツールを併用しながら遠隔授業を実施することは、授業準備・環境整備・トラブル対応・授業進行に併せたツールの送付など、教員に多様な負担が生じることは否めない。」と述べている。この論文を見るよりも明らかに、曜日別主担当教員の緊張感を感じ取り、プロジェクトチームの一員は、曜日別主担当教員と本部席で、机を横に並び、Zoom接続パソコンも並べつつ、常に横に寄り添い必要な資料は互いに準備し、常に画面共有が可能な状況で補助を続けていた。曜日別主担当教員の手の届く範囲と、声の届く範囲には、常にホスト役と補佐役の2名のプロジェクトチームのメンバーがパソコンの画面共有が常に可能であるように準備し、トラブル回避の補助を担える体制をとることで、統合実習を運営していた。こうした体制をとるために、科目責任者兼曜日別主担当教員の補助役の教員は、統合実習期間の統合実習以外にも担当していた講義は、すべて休校にし、統合実習終了後に補講を組むという授業計画の変更を行い2週間の実習補助役を遂行した。役割を担った教員のその後の講義準備と講義時間の圧迫などが生じることから、統合実習の開催予定や統合実習中の時間割の組み方などを検討し、プロジェクトチームの教員負担も考慮する必要があることを述べたい。

<質の高い看護教育に向けて>

初めての遠隔ソフトウェア利用でおこなう統合実習に対する試案から実際まで、統合実習プロジェクトメンバーの取り組み経緯はこれまでに述べた通りである。とりわけ2週目の病棟実習を想定した教材の工夫は、学生の想像力と創造することを喚起し、リアリティのある場面を教員と学生が作り上げたものといえよう。

この統合実習を運営するまでの経緯を述べてきたように、本紀要投稿を決意した理由は、未だに落ち着いた社会状況のなか、今後も看護基礎教育のあり方を検討し続けることの必要性、各自の教育実践を惜しみなく報告し合い、質の高い教育に向けた意見交換の重要性を感じたことが大きい。さらに、今回の統合実習の試みについて、「統合実習は、本当に辛かったが、充実していた」との言葉を複数の教員から聞いたことによる。この言葉には、「教えることの難しさと面白さ」や教育とは何かといった「教育の本質」が含まれており、今回の「新たな挑戦」の結果については、報告をする必要があると強く感じた。

プロジェクトメンバーはICT教育、機器に精通する教員1名を除いて、ほとんどの教員がWeb会議システ

ムの使用も初めてという状況であった。実際、筆者も「ICT教育」という用語や意味について知識は持っていたが、ICTを意識した教育は実践してこなかった。従来の自身の方法で問題を感じる事がなく、それなりの成果も得ていると思いこんでいたところもある。今回の統合実習プロジェクトでの活動は、そのような自身の考えに新しい刺激と成長の可能性を与えてくれた。

1997年の大学設置基準の改訂によって「遠隔授業」が制度化されたことにより、eラーニングという当時は新しい教授・学習のあり方が検討され、高等教育におけるICT教育が研究対象とみなされるようになった。それから20年余りが経過し、板書はパワーポイントのスライドに変わり、書籍や教科書はデジタル化し、生徒・学生全員にタブレットPC配布する学校も現れた。インターネットの発達により、教科書や書籍に掲載されている内容は自分で探せる時代になり、教師の役割は、知識を伝達することだけではなくなってきた。では、教員の役割は何なのか。ごく当たり前のことであるが、学生の学ぶ行動を引き出すための仕掛け、いわゆる授業デザインに関する知識や技術の吸収と自身の教育に対する検討、改善の努力を継続することである。その知識の基盤としては、ID (Instructional Design) についての考え方や知識が必要になるといわれている。IDとは「教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現することをさす」⁸⁾といわれている。もちろんICTだけがすべてではないが、ICT教育の手法や様々なICT機器関連は確実に教育分野に入り込んできている。教員は、「教育者としてのスキルアップ」について常に課題意識をもち、新しい挑戦を続けていく必要がある。

IV 謝辞

本紀要の作成が可能であったのは、統合実習の運営をともに担い、施設担当役割についていた教員の皆様、さらには遠隔ソフトウェア利用の統合実習に集った学生との協働作業が、コロナ禍の統合実習を作り上げたといえよう。双方の皆様に、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

V 引用文献・参考文献

- 1) 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 平成19年4月16日発出
厚生労働省ワーキンググループ報告書
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf> (2020年10月9日アクセス)
- 2) 『新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について』 2020年2月28日発出
https://www.mext.go.jp/content/202000302-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2020年10月7日アクセス)
- 3) 『新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について』 2020年6月1日発出
https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2020年10月7日アクセス)
- 4) TeamSTEPPS Japan Alliance
<http://www.mdbj.co.jp/tsja/faq.php> (2020年10月11日アクセス)
- 5) 厚生労働省：中国の武漢における肺炎の集団発生に関するWHO声明 2020年1月9日声明<https://>

www.forth.go.jp/topics/20200114.html (2020年10月24日アクセス)

WHO Statement Regarding Cluster of Pneumonia Cases in Wuhan, China

Statement[China 9 January 2020

<https://www.who.int/china/news/detail/09-01-2020-who-statement-regarding-cluster-of-pneumonia-cases-in-wuhan-china>

- 6) WHOのテドロス事務局長は3月11日、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) がパンデミック (世界的な大流行) に至っているとの認識を示し、各国に対し一層の対策強化を求めた。WHO World Health Organization :

<https://www.who.int/dg/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19--11-march-2020> (2020年10月24日アクセス)

- 7) 松下 幸司 (2020) 大学の遠隔講義におけるアクティブラーニング型授業の試み, ―グループ・コミュニケーション・ルームと情報共有ツールを併用して―

香川大学教育実践総合研究 (Bull. Educ. Res. Teach. Develop. Kagawa Univ.). 41, 89-98.

- 8) 鈴木克明 (2005) e-Learning実践のためのインストラクショナル・デザイン. 日本教育工学会論文誌. 29 (3). 197 -205

注1) 曜日別主担当教員とは、実習当日の指導案をもとに、その単元を担当し目標達成に導く役割を担った教員を指す。ついでながら、ホストとはZoom会議における画面の権限を持ったものとして使い分けて考えている。

2020年12月28日 受理
了徳寺大学研究紀要 第15号